

P T A 発表

発表者 P T A 交通安全推進委員会

学校名 神奈川県立相模原高等学校 P T A

テーマ 「相模原高校 P T A 交通安全推進委員会の活動」

1 はじめに

神奈川県立相模原高等学校は、1964年に開校し今年で55年目の全日制普通科高校です。各学年7クラスで、全校生徒数は826名です。最寄り駅はJR横浜線の相模原駅より徒歩約20分またはJR相模線上溝駅より徒歩約15分で本校に着きます。

市内各所より自転車利用する生徒は、全校生徒の94.3%が学校の最寄り駅より自転車通学を含め通学しています。

教育理念は『学び 育ち 支え』のキーコンセプトを生徒・教職員・保護者・地域等がShareする（分かち合う）ことで確かな学力と生きる力を育むことをめざしています。

KENSO 8C

Challenge	挑戦する
Check	点検する
Continue	継続する
Change	変革する
Create	創造する
Consider	思いやる・よく考える
Communicate	意思疎通をはかる
Commit	責任をもってかかわる

「KENSO 8C」については、意味は上記の8つの意味をもとに校訓は、『礼節 信義 根性』を掲げ、本校のモットー「文武両道 切磋琢磨」の行動指針として設け、社会に貢献できる人づくりにとりこんでいます。

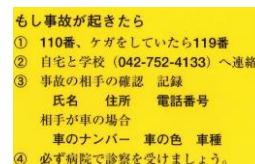
2019年度より、文部科学省よりSSHと指定され科学的探究力と国際性を備えた次世代のリーダーを育成する高大接続プログラムの研究開発をすすめています。また県教育委員会より学力向上進学重点校エントリー校と理数教育推進校も指定事業として幅広い分野での探求的な教育活動に取り組んでいます。

2 P T A 交通安全推進委員会について

相模原高校 P T A 活動組織は、全校生徒 826 名の保護者と教員 56 名で、学年ごとに評議員(役員)を選出し、本部・学年委員会・成人教育委員会・広報委員会・環境整備委員会・交通安全推進委員会として細分され活動しています。交通安全推進委員会は、各学年 3 名の計 9 名の少数精鋭で活動しています。

交通安全推進委員会の活動内容は、

- ・ 4月に新入生に『セーフティカード』を配付
もし事故が起きたら何をすべきか記載されているカードです。



- ・ 交通安全デーに交通安全指導に関わる
5月と10月に中央区役所地域振興課の方と近隣警察署と交通安全母の会等の方と教員で、本校正門・通用門・裏門に立ち交通安全の声掛けを行っています。また、交通安全指導後に生徒の自転車点検(許可ステッカー・ブレーキ・ベル・タイヤ空気圧・反射板など)を行います。点検でよくないところがある時は、警告の紙を自転車に貼ります。

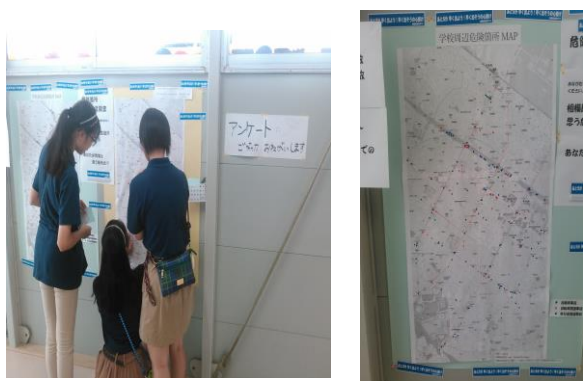


- ・ 『交通安全だより』を発行

7月と12月に自転車点検の結果等を生徒を通じ各家庭に配付します。

- ・9月の文化祭時に自動車学校の協力で自転車シミュレーターで反射神経テスト体験や交通安全クイズや危険箇所マップの紹介をします。

今年度は、文化祭前に保護者対象の交通安全推進委員会の活動の周知や生徒の通学路与危険性の共有と通学路のチェックのアンケートを実施した結果を文化祭に報告(回答率 78.7%)しました。



3 本校の交通安全指導の課題

- ・相模原市中央区は、道が平らで自転車事故が多い背景がある。JR横浜線相模原駅より自転車で通学するには国道16号線の交通量が多い道路を通らないとならない。舗道の狭い道があり、自動車と接触の危険性が高いところが多いのが課題。
- ・いつ加害者・被害者になるかもしれない危険箇所は常にあることの課題です。
- ・登下校中の自転車や歩行マナー順守させる。



4 課題への取組み

- ・自転車通学を許可するに当たっては、必ず自転車保険に加入することになっています。
- ・雨天時の傘さしでの自転車運転は、注意喚起させ雨合羽を使用させることを推進。
- ・日頃からの自転車点検を保護や生徒自身も点検を促す。
- ・セイフティカードを常に持ち歩く。
- ・事故が多い箇所は、神奈川県交安全対策協議会より「自転車事故多発地域」マップで確認できることを紹介する。
- ・交通安全デーに交通安全指導を地域の方や教員とともに継続的に粘り強く行う。
- ・自転車点検(許可ステッカー・ブレーキ・ベル・タイヤ空気圧・反射板など)を行う。不備箇所があれば警告する。
- ・事故発生箇所抽出の必要性和潜在して危険箇所が多くあることを再認識して周知して加害者や被害者にならないように継続して交通安全活動重視して行く。
- ・交通安全教室を1年生全員を対象として、警察署の方より事故傾向を報告していただき、事故にあわないように交通法やマナーや事故時の対応を講演していただき交通安全教育の重視して行く。



5 成果と課題について

成果として交通安全デーに交通安全指導を地域の方と教員とともに継続的に粘り強く行うことで緊張感があり特に自転車の運転マナーを生徒自身で注意喚起につながることで。

課題は、クルマ社会がある以上、常に危険な場所での被害者・加害者にいつなるかが課題で、生徒の命を守るにはPTAとして地道に交通安全指導を続けていくことです。